

シリーズ

# 「私の森語り」 もりかた

森林・林業との関わりの中で、  
様々な課題に挑戦されている方  
の取組を紹介します。

「木のぬくもりを感じる

中津川市ひと・まちテラス」



中津川市  
ひと・まちテラス所長  
安藤 嘉之

## 自己紹介

岐阜県中津川市にある「ひと・まちテラス」の所長をしています。

「ひと・まちテラス」は、かつて中山道中津川宿として栄えたこの地なかせんどう

に、再び賑わいをもたらそうと、「ひと・まち・未来を元気にする交流と

学びとにぎわいの拠点」を基本理念とし、「子育て支援」「市民交流」「学び

「観光」の機能を備えた複合施設です。

## 活動内容

多くの方に親しみを感ずる利用



ひと・まちテラスの外観

していたため、「木のぬくもりが感じられる施設にしよう」ということになりました。そのためには、建物全体を木造建築にするのが一番いいのですが、まちなかの防火地域内であり、二階、三階の一部が図書館で十七万冊の蔵書があることなどから、火事に強く、ある程度の重量にも耐えられる鉄筋コンクリートにする必要があります。そこで、建物内部にふんだんに木を散りばめることにしました。一階天井には格子状に組んだ中津川産のヒノキが使っており、三階にも入口を作る関係上、天井の位置は高く取れません。そこでヒノキを格子状に組み、取って天井裏まで見せることで、建物に入ったときに圧迫感がないようにしました。中津川市は、昔から森林文化が盛ん



ヒノキを格子状に組んだ「見せる」天井

で、現在も良質な木材や木製品を生産・加工する人たちが多くいます。「東濃ヒノキ」としても知られる市内のヒノキを使うことで、「他にはない、中津川市の建物」という主張も入れました。一階から三階に続く階段は、クリを使用しています。中津川市は「栗きんとん」をはじめとする栗菓子で有名ですが、「栗は食べるだけでなく建築にも使えます」という意味が込められています。また、お客様の手に直接触れる、階段の手すり、部屋の出入口の取っ手などには、木曾五木きそごご(ヒノキ、サワラ、アスナロ、ネズコ、コウヤマキ)が使われています。それらには、お客様がよく見なければわからない場所に、使用した木の名前がこっそりと記されています。ソフト面でも、木や森林に関するイベントを行っており、一つは、「木のことを知る」というテーマで行うトークイベントです。毎回木や森林を生業にしている方をゲストに招き、木との出会い、木に携わる仕事の苦勞と喜び、木や森林の未来などについて語っていただき、YouTubeで発信しています。また、それを積み重ねていき、ゲストの方の想いや願い

をアーカイブとして保存していくことも行っています。もう一つが、木育のワークショップです。マイ箸づくり、桶作り、ヒノキボールすくい、木を使った昆虫標本作りなどの体験ワークショップを定期的に行っています。昨年七月十五日にオープンしてから一年が過ぎ、九月十一日現在五万三千四百七十四人の方にご利用いただいております。今後も「にぎわいの拠点」になるために、中山道の街道文化、市北部を中心とした森林文化を大切にしながら、さらに多くのお客様にお越しいただけるよう創意工夫を重ねてまいります。



ヒノキボールすくいに挑戦する子ども

## 連絡先

岐阜県中津川市新町二一三四  
中津川市ひと・まちテラス

